

1 日時 平成26年2月12日（水） 午後7時～午後9時

2 場所 中央区保健所2階大会議室

3 出席者

【委員】

松本俊彦(委員長)、小川一夫(副委員長)、岩重佳治、石松伸一、池田真人、栗原正典、大辻正高、佐藤文則、前田宥全、大田新吾、前田幸治（代理）、山上嘉人（代理）、高橋邦子、阿部雅俊（代理）、松本勝裕、柳田愼二(代理)、浅沼孝一郎、平林治樹、和田哲明、新治満

【オブザーバー】

嶋根卓也（国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所
薬物依存研究部 心理社会研究室長）

【事務局】

健康推進課長、予防係長、健康推進主査、他

（主な議題）

- 1 本年度の取組み及び自殺未遂者調査の進捗状況
- 2 薬局薬剤師の過量服薬防止について
- 3 これからの取組みの方向性

[議事の経過]

- 1 本年度の取組み及び自殺未遂者調査の進捗状況について

事務局より本年度の自殺対策についての説明があり、その後意見交換が行われた。委員からの主な意見は以下のとおりである。

（事務局説明）

- 人材育成として薬剤師研修会にてゲートキーパー養成講座を実施する。
- 自殺対策協議会を通じて、自殺未遂者調査を行っている。

（委員からの意見）

- 調査結果の数値をシェアするだけでなく、調査で扱った個別の事例等を共有して、各機関で自殺予防の取組みに役立てれば良いと思う。
- 次年度も調査を継続し、区自殺未遂者の特徴を分析できるといい。

- 2 薬局薬剤師の過量服薬防止について

オブザーバーより薬局薬剤師の過量服薬防止について報告があり、その後意見交換が行われた。委員からの主な意見は以下のとおりである。

（オブザーバー説明）

○過量服薬に気づいた場合でも薬剤師から処方医へ疑義照会や情報共有が十分にされない。

○薬剤師がゲートキーパーとして能力を発揮できるように、研修会を継続していくことが必要。

(委員からの意見)

○医師側として、薬剤師からの疑義照会や情報提供は非常に助かる。

○薬剤師がゲートキーパーとして機能するには、医療、行政との連携・相互理解を深めていくことが必要。

3 これからの取組みの方向性について

事務局より平成26年度以降の取組みの方向性について報告があり、その後意見交換が行われた。委員からの主な意見は以下のとおりである。

(事務局説明)

○3本の柱に沿って事業展開をしていく。

○来年度、新規の取り組みとして自殺未遂者家族を支援するためこれから家族がどう対応するかを後押しできるようなリーフレットを作成する。

(委員からの意見)

○過量服薬の問題は、医師一人一人がもっと深刻に受け止めるべき問題であるとともに、社会全体としても考えていくべき問題だと思う。

○家族への支援は、間接的に自殺者を減らすことにつながると思う。

4 その他

平成26年度第1回中央区自殺対策協議会は、平成26年7月16日(水)19時より開催されることが決定した。